



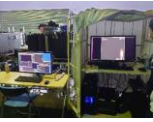



魚市場	
実施時期	実施内容
平成16年7月	<ul style="list-style-type: none"> ■電子入札システム導入（延縄漁，大目流し網漁など） ・マグロ類，カジキ類，サメ類の入札～落札 ・OCR装置による入札フダの読み込み ・大型モニターによる落札結果表示 ・入札室と事務室のネットワーク構築
平成22年4月	<ul style="list-style-type: none"> ■ホームページを活用した情報提供 ・入船情報 ・市況情報（高値，下値） ・休日状況や統計情報など各種情報
平成25年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・販売代金請求書を紙の他にデータでも提供開始
平成30年3月	<ul style="list-style-type: none"> ■タブレット端末による入札システム導入（定置網やかご漁など） ・取り扱われる約100種類の魚介類の入札～落札  
平成31年～	<ul style="list-style-type: none"> ■新魚市場（C棟D棟）の供用開始 ・マグロ類，カジキ類，サメ類，サンマ，サバ類，イワシ類の入札～落札 ・OCR装置による入札フダの読み込み ・大型モニターによる落札結果表示 ・入札室，事務室，宿直室のネットワーク構築 ・ICカードによる入場管理 ・複数のカメラによる入港船や衛生面の管理・チェック ・電動フォークリフトによる計量 ■CALDAPの実証実験 ・カツオ，ピンナガマグロの漁獲・水揚げデータの集約及び発信 
※実証実験中	<ul style="list-style-type: none"> ■AI自動選別機の開発 ・定置網で水揚げされる雑多な魚を魚種やサイズごとに選別 ・東北大学と協力し，開発が進められている  

漁船	
実施時期	実施内容
令和2年～	<ul style="list-style-type: none"> ■高速衛星通信（インマルサットFXの導入）・遠洋船 ・気象・海況情報の早期取得 ・一部船内にWi-Fi機器設置 ・陸上からのサポート体制の整備（試験中） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・エンジン，機械トラブル対応 ・乗船履歴が少ない乗組員のフォロー </div> <ul style="list-style-type: none"> ■船間及び陸上とのイントラネットの構築・近海船 ・漁場漁獲データ自動送信システム（※）の導入 ※JAFIC開発 ・陸上との漁獲情報のリアルタイムでの共有 ・漁獲成績報告書への反映 ・安全性向上，資源管理強化 

加工・流通DX


- タブレット端末による検査結果の管理
- ・金属探知，X線等の検査
- 従業員の入場記録・管理の強化
- ・ICチップから網膜による入場管理
→担当者以外の入場規制

CALDAPの活用により，

- ・仕入れたロットのデータや販売証明書，漁獲証明書等入手
- ・電子メール等で輸出業者へ転送
→米国等の輸出先国が求めるトレーサビリティに効率的に対応

産業DX

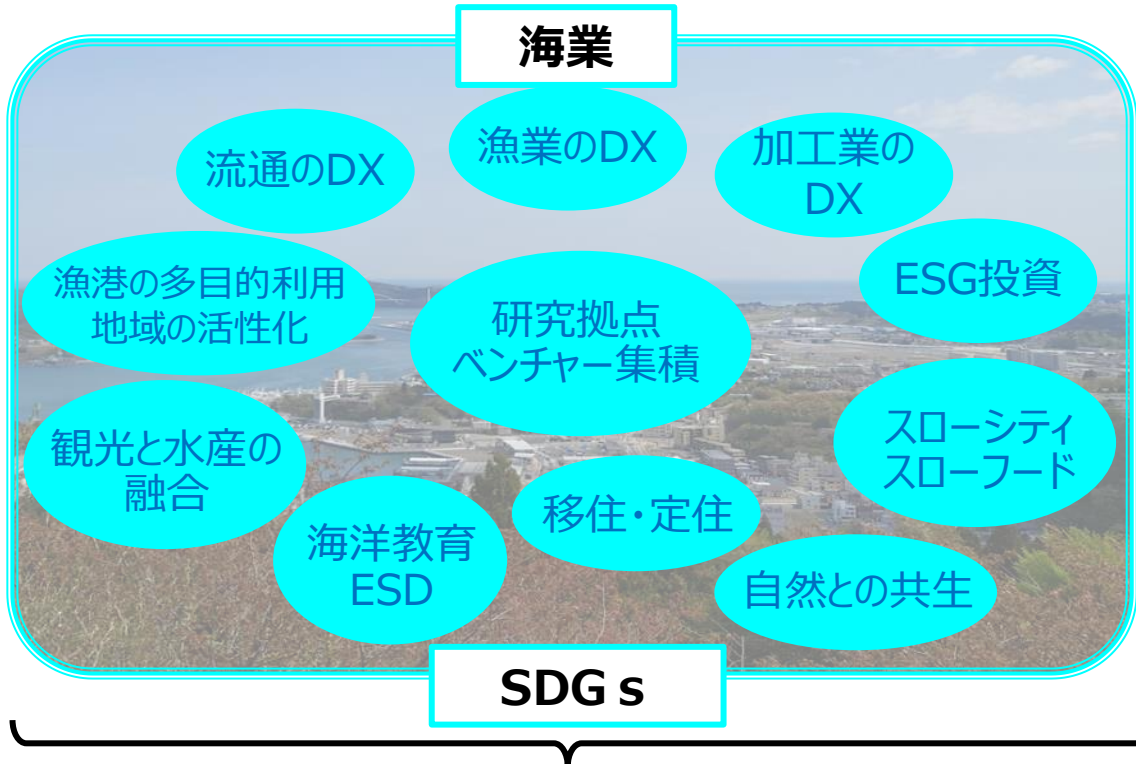
- LDX（ローカル・デジタル・トランスフォーメーション）の促進
- ・デジタル・IT化促進に必要な人材を採用した事業者への補助金の交付
- ・地域企業のデジタル化・生産性向上等に関する講演会の開催
- ・将来市内事業者のデジタル化の担い手になり得る地元中高生を対象としたプログラミング教室の実施
→デジタル化に関する知識を有する人材の呼び込み・育成をすることで地元産業の生産性向上を図る



気仙沼市におけるデジタル水産業戦略拠点に係る考え方について（案）

- 水産庁が掲げる「**2025年までに2地域で実施**」への対応を目指す
 - ⇒ 選定に係る要件が2022年度内に示される方向
 - ⇒ 関係者との意思統一を図るため、並行して、本市においてデジタル水産業に係る協議会を立ち上げる
- まちづくり全体で取り組み、**特三漁港に相応しい新しい水産都市・海業としてのロールモデル**を作る

<イメージ図>



デジタルの活用による海業の発展

(仮) 海と生きる気仙沼 海業×DX

海と
生きる

<協議会の設置>

- 10～15人とし、水産業各分野、観光業、人材・教育等といった3,4程度のサブグループを構成し、個別に議論できる体制とする
- メンバーは、10年後に主役となる50歳代以下が中心となるようにする

本年11月中に協議会を立ち上げ、
年明けの第1回目開催を目指す

デジタル水産業戦略拠点 グランドデザインのポイント

- 漁業・水産業におけるこれまでの取り組み(電子化・IT化・ネットワーク化)を地域の住民・事業者をはじめ教育機関・民間企業も利活用できる**オープンなデータ共有/連携基盤に発展**させる。
- 漁業・水産業という特定のサプライチェーンに閉じずに、海/港/船/水産物を気仙沼の地域資源の一つとして**健康/観光/交通/教育等とのバリューチェーンを構築**する。
- “海”を起点としたあらゆるイノベーションを実現するための**新規産業創出拠点**として、海洋・水産に関連する大学や学会、国内外のベンチャー企業との関係構築の仕組みづくりを考える。

